

第6回 2016年10月12日(水)

第6回の一류塾は、講師に三枝 匡氏（株）ミスミグループ本社取締役会議長）をお迎えしました。講義は、『明日を担う経営者人材の条件－日本企業の強さ再構築をめざして－』と題して、三枝氏お一人にご担当いただきました。



【講師 三枝氏】

序盤では、経営者に求められる「フレームワーク」について講義いただきました。この中では、強いリーダーは必ず強い「フレームワーク」を持って活用しているものであり、リーダーシップの基本であることをご紹介いただきました。概念的な内容にも関わらず、三枝氏のプロ経営者としての経験を交えながら具体的に分かりやすくご説明いただきました。

「フレームワーク」に続き、「事業革新の目がトレンドと『日本の経営』の歴史観」についてお話しいただきました。1960年代から現在までの日米企業の凋落・復興の変遷とその背景や原因について卓越した視点からの分析をお示しいただき、また、歴史から学ぶべき教訓と海外企業に大きな遅れを取っている日本企業の課題を、強い危機感とともに語っていただきました。そのうえで、海外の経営者に比べて日本の経営者は経営リテラシーが未熟であること、経営リテラシーを磨かなければ、グローバルな競争には勝ち残れないことを強い口調で塾生に伝えられました。



講義の様子

講義の終盤では、「変革の死の谷に挑む」と題して、業績が悪化する経営環境を変革し、厳しい市場の中でも成長し続けるよう組織を運営するための取り組みについてお話しいただきました。冒頭で紹介されたフレームワークの概念を、具体的なビジネスでどのように活用するかについてご説明いただき、塾生の理解が大いに深まりました。講義の最後には、経営リテラシーである「論理」に支えられた経営を行い、そのうえで「情」の部分を考えることが強いリーダーの道であるとの言葉で塾生を激励されました。



質疑応答の様子

講義の後には、一柳塾長がファシリテーターとなり、三枝氏と塾生との質疑応答が行われました。塾生からは、自社で変革を推進するための具体的な課題や、プロ経営者としての三枝氏のご経験などについて、多数の質問があがりました。三枝氏からは、塾生への質問に答えるだけでなく、問題の本質を問い直しながら塾生の理解を深めるよう促され、活発なディスカッションが展開されました。



放談会風景

塾生からは、「経営者でありながら自分の経営リテラシーの貧弱さに強烈な危機感を覚えた」、「部署ごとの課題解決は日々行ってきたつもりだが、経営という視点で組織全体の問題に向き合えていなかったと深く反省した」、「フレームワークのひとつひとつが目から鱗が落ちる思いであった。先生の説明がとても分かりやすく、説得力があり、胸に突き刺さる講義であった」、「論理を先に組み立て取り組んでから、情に訴える順番を実践していきたい」といった声があがりました。

三枝氏による講義と質疑応答の後には、塾生有志が塾長を囲んでの放談会が行われ、袴を脱いだ交流が行われ、深夜まで大いに盛り上がりました。

なお今回塾生には、三枝氏の下記の推薦図書を事前学習したうえで講義に参加していただきました。

『ザ・会社改造 340人からグローバル1万人企業へ』日本経済新聞出版社（2016年9月）

『増補改訂版 V字回復の経営』日本経済新聞出版社（2013年6月）

『「日本の経営」を創る』共著 日本経済新聞出版社（2008年11月）

『最新マネジメントの教科書』日経B Pムック（2014年4月）